



あいそ ひでお
相磯 秀夫 氏

第25回 2009年度 高柳記念賞

「黎明期における計算機研究開発と国産計算機産業の育成
ならびに緒学問横断的な情報系学問領域の開拓」

相磯秀夫氏は、我が国のトランジスタ計算機第1号の開発に従事し、以来一貫して次世代計算機の研究開発とその工業化に大きな貢献をされました。特にその研究成果の企業への技術指導を通して、我が国計算機産業の育成と発展に尽くした業績は多大であり、又情報分野における新しい複合学問領域の開拓ならびにその教育・研究環境の開発にも顕著な業績を挙げられました。この先見性と数々の先進的業績は高く評価されるものであり、この度の高柳記念賞受賞となりました。

主な業績は下記の通りです。

1. 黎明期におけるトランジスタ計算機の研究開発

通商産業省電気試験所において、わが国初のトランジスタ計算機 E T L M a r k I V の独創的な基本論理回路を設計した。この基本回路は安定に動作し、高い評価を得て、多くの研究所や企業において使用された。E T L M a r k I V の研究成果は計算機の国産化に挑戦する企業に技術移転され、各企業の商用計算機第1号開発の指導を通じて国産計算機の工業化に大きな貢献をした。その結果、この技術指導は米国に次ぐ国産計算機産業の端緒を開いたといわれ、計算機開発のパイオニアとしてわが国の計算機産業の育成と発展に尽くした功績は高く評価されている。

2. 次世代計算機システムの研究開発

慶應義塾大学に移籍した後も一貫して計算機アーキテクチャの研究に従事し、次世代計算機システムや計算機アーキテクチャの自動最適化などの研究を行う傍ら、実用化が進んだマイクロコンピュータを積極的に活用した多様な問題適応型並列コンピューターシステムなど幅広い研究を行い、その有用性を立証し、多くの論文賞や功績賞を受賞した。また、通商産業省が支援した5つの大型国家プロジェクトに参画した。特に、世界に先駆けた最先端研究開発として一世を風靡した“第5世代コンピュータ”および“科学用スーパーコンピュータ”プロジェクトでは推進委員長を務め、国際的に学術や産業界に顕著な貢献をした。その間、今日この分野で活躍している多くの有能な学者・研究者・技術者を育成した。

3. 大学改革と緒学問横断的な情報学系学問領域の開拓

学術の急速な進歩や社会の急激な変革に対応して、大学改革の一端を担った。その改革に当たっては、学術の進歩、産業・社会における大学の役割、社会環境の変化、大学の体質改善、将来ビジョンの策定などの広い視点から、これからの大学の教育・研究の在り方について徹底的な検討とその実現に主導的な役割を果たした。その成果は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの新学部として結実し、大学改革のモデルとして多くの大学に大きな影響を与えた。またその過程で、他学問と異なった性格を持つ情報系学問に注視し、新しい情報学系学問領域の開拓に挑戦した。

その成果の一つは、未来社会で重要になる“情報”と“環境”の両面を情報学を基礎として緒学問横断的に捉え、豊かな社会の構築と新しい文化の創造に寄与することを目指す“環境情報学部”の創設であり、もう一つは東京工科大学に移籍後、未来社会におけるコミュニケーションの重要性に着目し、情報の視座から文科系・理科系（文・理・芸）融合の複合学問領域“メディア学部”の創設であるが、いずれもわが国の大学改革や教育の面から高い評価を得ている。

4. 学会・産業界・政府機関での活躍

情報処理学会副会長をはじめ、国内外の多くの学会や学術会議等の委員長・企画委員長・論文審査委員長・セッション座長などの役職を歴任している。また、産業界や政府関係の委員会において委員長や顧問などの要職を多数務めている。

略 歴	1932. 3.	横浜生まれ
学 歴	1955	慶應義塾大学 工学部電気工学科卒業
	1957	慶應義塾大学大学院 工学研究科電気工学専攻修士課程修了
職 歴	1957	大阪大学 工学部助手
	1957～71	通商産業省 工学技術院電気試験所電子技官
	1960～62	米国イリノイ大学 計算機研究所研究所助手
	1971～90	慶應義塾大学 理工学部教授
	1982～83	英国ケンブリッジ大学ダウニングカレッジ及び計算機研究所訪問教授
	1990～99	慶應義塾大学 環境情報学部学部長・教授
	1999～03	東京工科大学 メディア学部学部長・教授
	1999～08	東京工科大学 学長
	1999	東京工科大学 理事、現在に至る
受賞歴	学術論文賞（米国計算機学会・電子通信学会2件・情報処理学会） 慶應義塾賞 情報処理学会功績賞 通商産業大臣賞及び同個人賞 C&C賞 紫綬褒章 瑞宝中綬章	